

学校法人那須内海学園 那須みふじ幼稚園

園児数	内容区分（あてはまるものすべてに○を記入）
54名	<input type="checkbox"/> 遊びを通して楽しく体を動かすための環境の工夫 <input type="checkbox"/> 多様な体の動きを経験するための園庭や遊具の配置等の工夫 <input type="radio"/> 季節や気候等を考慮した計画的な指導計画の作成 <input type="radio"/> 体づくりに関する家庭との連携 <input type="radio"/> 教職員の資質向上のための取組

1 ねらい

コロナ禍において実行可能なこととして、幼稚園における保育の基本要素である生活リズム、栄養、呼吸、昔話、生命の尊さ、および皮膚や感覚の働きについて、医療的観点からの研修を幼稚園の会場およびオンラインで同時に行い、その内容を保育者と保護者が共有することで、子どもの心身の健康を支えるうえでの保育の役割を見つめ、保護者と幼稚園の連携を促進する。

2 実施内容

栃木県および那須町の「子育てランド事業」の枠内で、本園創立45周年記念と称し、園長の知己である6名の医師にオンライン連続講座を依頼し、園の教職員および保護者に参加を呼びかけ、那須町子ども未来課のご紹介により町内の保育者にもご参加いただいた。実施期日、講師、内容は以下の通りである。

令和2年7月28日「遊びのリズム、子育てのリズム」小林啓子医師（小児科専門医、ひかりのつぼみ自由クリニック代表）

令和2年8月31日「子どもの栄養を考える」安達晴己医師（一般内科医、小さいうち自由クリニック院長）

令和2年9月23日「呼吸する私たちの耳、そして肺」堀雅明医師（耳鼻咽喉科ほりクリニック院長）

令和2年10月19日「子どもの成長と皮膚のはたらき」山本百合子医師（皮膚科医、すみれが丘ひだまりクリニック院長）

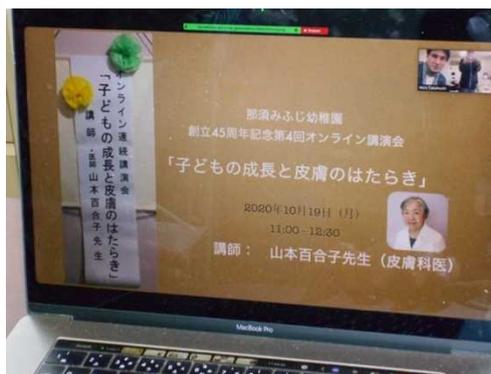
令和2年11月28日「緩和ケアと保育から《いのち》を見つめる」藤原葉子医師（ホスピス医、ホームケアクリニック札幌院長）

令和2年12月18日「子どもの心を育てる昔話」八尋美千代医師（精神科医、ほっとメンタルクリニック院長）

3 主な成果

- 生活リズム、食、皮膚の発達と病気など、身近な問題についてわかりやすい研修を受けることで、普段の生活や保育が、いかに子どもの健康にとって重要であるかを再認識できた。
- 「生命」を慈しむことの大切さを、死を意識しつつ「今」を生きる人々のお話を通して実感し、保育や子育てにつなげて考えることができた。
- 昔話という健康とは関わりなく思われる事柄が、いかに心身の成長にとって大切であるかを専門家の観点から伝えてもらうことで、幼稚園や家庭における読み聞かせの重要性を再認識できた。
- オンラインと会場をつなぎ、質問や意見交換をすることで、コロナ禍により希薄になっていた幼稚園と保護者の関係を補い、具体的な保育・生活実践につなげることができた。

4 資料



健康と体力づくりには、いわゆるスポーツのほか、生活のリズムの中での定期的な活動や、自然環境からの感覚刺激が重要という観点から、授業中のサッカー（ボール遊び）や外遊びに加えて、できるだけ毎朝、散歩に出かけたり、毎週木曜日は「外の日」として、畑に触れるなどの屋外活動を行っています。それによって、子どもたちは自主的に身体を動かし、季節の移り変わりを感じ取り、おのずから体力も身につけてきます。